

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

兵庫県の肝炎医療コーディネーターの現状調査およびその育成に関する研究

研究分担者 飯島尋子 兵庫医科大学 消化器内科学 教授

研究要旨

【背景】肝炎対策のステップ「予防」「受検」「受診」「受療」、それから治療後の定期的なフォローアップ支援までの一連の流れにおいて、肝炎医療コーディネーター（肝 Co）は重要な役割を担っており、これからは肝 Co の育成が必須である。本研究では、兵庫県における肝 Co の現在の活動状況についてアンケート調査を行った。

【方法】令和 2 年度肝炎医療コーディネーター研修会及びスキルアップ研修会の参加者に研修会終了後にメールでアンケートを行った。【結果】肝炎医療コーディネーター研修会事後アンケート 108 人、スキルアップ研修会事後アンケート 44 人から回答を得た。1) 年齢分布は、20 代(19%)、30 代(30%)、40 代(24%)、50 代(18%)、60 代(8%)、70 代以上(1%)であった。2) 養成研修会に参加した理由はとして回答が多かったものは、自己研鑽ため(58.3%)、肝炎について知りたかった、講演の内容に興味があった(55.6%)、参加するように上司などから勧められた(47.2%)であった。参加者自身又は家族が肝炎患者で、その経験を生かしたいという意見もあった。3) 業務上やプライベートで肝疾患に関わる肝 Co は 89%であった。4) 職場や所属団体に自分以外の肝 Co がいる方は、74%であった。5) 肝 Co の資格を取った後、活動することに不安を持っている肝 Co は 63%であった。治療や予後、生活について、助成制度などの質問について正しく説明ができるか不安、院内でのシステムや連携が取れていない等の意見があった。【結語】兵庫県では肝 Co の資格は取得したものの、どのように活動していいのかわからないという回答が多かった。これは、養成後のフォローアップが無く、活動を支援できていなかったものと考えられた。また、肝 Co 同士の繋がりも欠如し、孤立した状況であることが問題であることが推測された。今後は、広島県の方法を参考にし、年 1 回は講義を中心とした講習会に参加することにより新しい情報の収集や知識の確認をしてもらい、更なるレベルアップのためのスキルアップ研修会への参加を推進し、肝 Co と医師や他の医療従事者との連携を深めたい。また任期制度を設け、肝 Co を取得しただけに留まらない方法を模索する。SNS を活用し Co 同士の連携を推進したい。また肝 Co の職種を看護師や歯科衛生士、薬剤師など拡張しそれぞれの職に応じた活動の推進も行う。

A. 研究目的

兵庫県において肝炎医療コーディネーターは約 750 人の登録がある。しかしながら、その活動については明らかになっていない部分が多い。そこで、肝 Co の現状を把握す

るために、現在の活動状況についてアンケート調査を行った。

B. 研究方法

令和 2 年度肝炎医療コーディネーター研

学会及びスキルアップ研修会の参加者に研修会終了後にメールでアンケートの回答を得た。

C. 研究結果

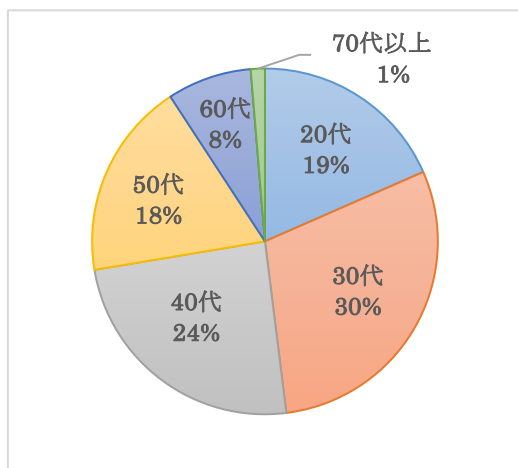
(アンケート回収数)

肝炎医療コーディネーター研修会事後アンケート：108

肝炎医療コーディネータースキルアップ研修会事後アンケート：44

1) 年齢は？

20代(19%)、30代(30%)、40代(24%)、50代(18%)、60代(8%)、70代以上(1%)であった。



2) 養成研修会に参加した理由は？

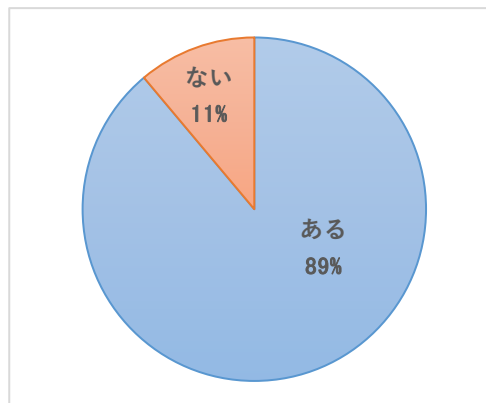
回答が多かったのは、自己研鑽ため(58.3%)、肝炎について知りたかった、講演の内容に興味があった(55.6%)、参加するように上司などから勧められた(47.2%)であった。

養成研修会に参加した理由はなぜですか？(複数回答可能)		
回答内容	N	%
肝炎について知りたかった、公演の内容に興味があった	60	55.6
肝炎の患者さんに関わる機会があった	44	40.7
肝臓の疾患の患者さんに関わる機会があった	31	28.7
参加するように上司などから勧められた	51	47.2
参加を肝炎医療コーディネーターに進められた	11	10.2
周りにいる肝炎医療コーディネーターの活動をみて興味を持った	5	4.6
身近に肝炎の方がいたから	11	10.2
自己研鑽のため	63	58.3
その他	6	5.6

その他の理由として、自身が肝炎患者であり、受検、受診勧奨を依頼する場合のツールとしたい、父親がB型肝炎で訴訟のサポートを行った経験を生かしたいという意見もあった。

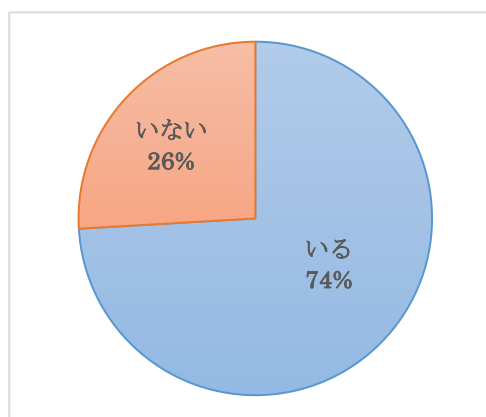
3) 業務上やプライベートで肝疾患に関わることはあるか？

肝疾患に関わるという肝Coは89%であった。



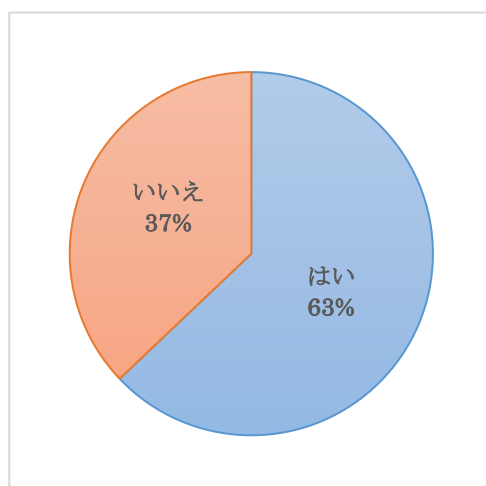
4) 周りに肝Coはいるか？

職場や所属団体に自分以外の肝Coがいる方は、74%であった。



5) 肝Coの資格を取った後、活動することに不安はあるか？

不安を持っている肝Coは63%であった。



・肝炎陽性者へのフォローにおいて、治療や予後、生活について、助成制度などの質問について正しく説明ができるか

・病院全体の肝炎ウイルス検査陽性者への内科受診への院内連携が構築されていないことや、脂肪肝患者への積極的な指導支援がなされていない。

・病院としての方針が分からないので、方針が決まってから活動したい。

などの意見もあった。

D. 考察

兵庫県では肝 Co は比較的多く養成されているものの、具体的にどのように患者さんに関わり、活動していいのかわからないという回答が多かった。これは、肝 Co 同士の繋がりがなく、孤立した状況であることが問題であることが推測された。今後は、広島県の方法を参考にし、年 1 回は知識を確認、レベルアップのためのスキルアップ研修会への参加を推進したい。また任期制度を設け、肝 Co 資格を取得しただけに留まらない方法を模索していき、SNS を活用し肝 Co 同士のつながりを推進する。すでにホームページを立ち上げ、肝 Co LINE や Facebook の活用を開始した。今後は肝疾患専門医療機関や県全域医療機関への啓発活動も同時に進め、各機関における肝 Co の活動の発展に繋げていく。

E. 結論

兵庫県における肝 Co の現在の状況についてアンケート調査を行った。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

